

欧州の協同組合銀行における若い世代向けの取組み

理事研究員 重頭ユカリ

日本と同様、欧州の協同組合銀行においても、人口の高齢化の進展とともに組合員や利用者の高齢化が進んでいる。そのようななか、各協同組合銀行では若い世代とのつながりを深めようと、様々な取組みを行っている。共通して行っているのは若い世代向けの金融教育だが、以下ではそれ以外の特徴的と思われる取組みを紹介したい。

1 クレディ・アグリコルはオンライン就活プラットフォームを運営

フランスのクレディ・アグリコルの39地方金庫とその子会社は7.3万人を雇用しており、国内大手の民間雇用主の1つである。若い世代の最大の関心事は職業訓練と雇用であるとの認識のもと、同行はYouzfulというオンラインプラットフォーム(<https://www.youzful-by-ca.fr/>)を2021年に立ち上げた。

Youzfulは若者の就職活動をサポートするためのウェブサイトであり、特に地方の求人情報を紹介することに力を入れている。クレディ・アグリコル内の求人はもちろん、外部のサービスとも連携し、25年3月末時点ではインターンなども含めて841,255件の求人情報を紹介している。ぶどう農園や養鶏場での職や、きこりとしての仕事など、農業や林業に関連する求人も1,200件ほど掲載している。

また、学校の授業のノートの取り方から、インターンの申込み、履歴書の書き方など、学生生活や就職活動に関する幅広い内容の記事も掲載している。そして、運転免許証の取得に関する記事であれば自動車保険というよ

うに、各記事の最後にはその記事の内容に関連の深いクレディ・アグリコルの商品が簡単に紹介され、クリックすると詳細がみられるようになっている。

さらに、各地方金庫が地域の企業を集めて就職希望者とのマッチングなどを対面で行うJob Datingというイベントへの参加申込みも、同ウェブサイトから行うことができる。

Credit Agricole S.A.の年次報告書(23年版)によれば、21年1月の立上げから23年末までの間に、370万人(重複カウントなしの個人ベース)がYouzfulを閲覧し、270,553人の若者が登録を行った。サイトでは、記事、動画、職務記述書など1,100のコンテンツアイテムを提供し、ウェビナーなど185のイベントを実施した。また、地方金庫が開催した177回のJob Datingには、11,000人以上の求職者と2,000社近くの企業が参加した。

2 ドイツでは「小さな羊飼い」に手当を支給

ドイツの672のライフアイゼン／フォルクスバンク(単協をさす、数は24年末時点)は、地元団体への寄付やスポンサー活動、サービスの無償提供、地域のコミュニティ財団への資金拠出などを積極的に行っている。そして、社会的な活動を紹介する報告書やウェブサイトによれば(注)、そうした活動の49%は、子どもや若者への支援に向けられている。

具体的な内容は地域の実情に応じて多様であるが、上記報告書／サイトが紹介する事例の1つが、ドイツ・アルプスの麓アルゴイ地方にあるケンプテン・オーバーアルゴイ・ラ

イファイゼンバンクの「小さな羊飼ひ(Kleine Hirten)」という取組みである。

アルゴイ地方では、5月末から10月の初めにかけて、青少年が週末や学校の休暇中に山の牧草地で「小さな羊飼ひ」として牛の世話をを行う。記事で紹介されている13歳と15歳の2人の少年は、朝には牛を牧草地に連れて行き夕方に納屋に戻す、電気柵が閉まっていることを確認する、水飲み場を掃除する、ミネラル摂取用の岩塩を敷くなどの作業をしている。2人はそれぞれ酪農家の子弟であるが、両親とは別の酪農家のもとで「小さな羊飼ひ」として一緒に働いている。

ケンプテン・オーバーアルゴイ・ライファイゼンバンクは、10歳から17歳までの青少年が管内の牧草地で少なくとも4週間働いた場合、期間に応じて50ユーロから100ユーロの手当を支給する。09年以来、毎年総額1万ユーロを支給しており、23年には合計105人に手当を支給した。

「小さな羊飼ひ」たちは、この地域の酪農業に労力として貢献しているだけではない。同地域の現役の酪農家たちのほとんどは「小さな羊飼ひ」を経験しており、この取組みは地域の酪農業の承継にも大きな影響があるという。農業をルーツとする同ライファイゼンバンクにとって、「小さな羊飼ひ」への手当の支給は、青少年の地域に対する意識を強める非常に効果的な投資となっている。

3 特定の活動をする若い世代に助成金支給

フランスのクレディ・ミュチュエルでは、

(注) 報告書名は、Bericht über das gesellschaftliche Engagement、ウェブサイトは<https://www.vielefuerviele.de/> (2025年4月3日最終アクセス)

若い世代の社会参加を支援するため、スポーツの指導やボランティア活動などに従事する26歳未満の若者に助成金を支給する取組みを、24年12月末まで行った。地域の消防団への参加、青少年活動の指導資格を保有、環境保護活動への参加などの条件に該当すると、同行で開設済みまたは開設予定の口座に50ユーロを1回のみ支給するというものである。同行は、ウェブサイトのカテゴリ見出しに音楽という項目を設けるなど、音楽への支援を前面に打ち出しており、同行が関係する音楽イベントのボランティアでも条件を満たすことができた。

他方、オランダのラボバンクは自転車チームのスポンサーをつとめるなどスポーツへの支援を積極的に行ってきたが、24年には同行の創立125年を記念してスポーツをする若者を支援した。若い世代の心身の健康を促進し、同行と持続的なつながりをもってもらいたいというのがその趣旨である。具体的には、NOC*NSFという協会傘下の約24,000のスポーツ団体に加入している10~20歳の若い世代に、125ユーロを支給した。24年6月3日から9月30日の間申込みを受け付け、保護者または本人のラボバンクの口座を通じて支給が行われた。ラボバンクの24年のインパクトレポートによれば、17万人の若者がこの助成を受けている。

おわりに

ここでは多くの取組みのなかの一部しか紹介できていないが、各協同組合銀行は、音楽やスポーツなどこれまで注力してきた分野や、地方や農業の活性化とも絡めつつ、若い世代を支援している様子がうかがわれる。

(しげとう ゆかり)